



上末っ子

令和3年11月30日

12月号

横浜市立上末吉小学校

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>



学校ホームページ用QRコードです。
「学校の様子」から各学年の様子を
ご覧いただけます。

受容性の高さが生む居心地のよさ

校長 内田 宏平

フレンズ活動（1～6年生で編成したグループによるたてわり活動）では異学年の仲間と関わる機会が多くあります。5月に行った最初の活動日、グループ内で自己紹介をする場面では、緊張する低学年の子に優しく寄り添う6年生の姿が見られました。安心してもらえるように優しい表情でうなずきながら聞く6年生。その様子を見たグループの子たちは、優しいリーダーの受容性の高さを学びます。「なりたい自分像」がすぐ近くに存在する幸せ。今の6年生も数年前までは低学年でした。きっと、素敵な先輩たちの姿を見て成長を重ねてきたのでしょう。自分の学びを次の世代に受け渡していく。これも、豊かな関わりがあるからこそ実現させることのできる姿です。



【5月】
6年生の受容性の高さが安心感を生んでいました。

感染拡大防止策を講じた上での学校生活を送ってきたことで、予定通りにいかないことも多くありました。感染者数の多かった時期は「学級の枠を超えての活動は控える」というガイドラインを遵守し、フレンズ活動もストップしていました。そして、11月になり、やっと第2回フレンズ交流会をもつことができました。第2回フレンズ交流会では、「友達の名前を覚えよう」というテーマの下、グループ内でプロフィールクイズ（それぞれが自分にまつわるクイズを出すというもの）に取り組みました。



【11月】受容性の輪が広がっています！

「上末吉の子どもたちのよさだなあ」と改めて実感したのが『受容性の高さ』です。相手をしっかりと受けとめようとする。その意識が安心できる雰囲気を生んでいきます。受容性が高いということは、一人一人の自分らしさ（多様性）を認め合っているということです。幸せに生きられる社会を持続可能なものにするために欠くことのできない力です。5月に多くの6年生が示してくれたその力が、学校全体に広がっている印象を受けました（6年生の皆さんありがとう！）。

さて、今年5月に6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。子どもたちの学力の状況や抱えている思い・考えを知るための調査です。（結果の概要については、学校ホームページで保護者向けに公開しています。この調査で得られた本校の子どもたちの傾向や課題にどのように対応していくかについては、教職員全体で検討し、次年度以降の教育活動に反映していきます。）

その調査の中に『学校に行くのは楽しいと思えますか？』という質問項目がありました。長引くコロナ禍、不安定な社会情勢の中を丸一年以上過ごしてきた子どもたちがどのように答えるのか不安がありました。「はい」つまり、楽しいと思うと答えた子の割合は、全国平均で47.9%、神奈川県平均で47.8%、上末吉小学校6年生平均は56.6%という結果でした。全国や県と比較すると『学校に行くのは楽しい』と思えている子が多い結果です。そこには、子どもたち自身がつくりだしている互いを認め合う『受容性の高さ』が影響しているのだと考えます。受容性の高さが居心地のよさを生み、学校の楽しさにつながっているのです。

また、保護者・地域の皆様が学校に対して肯定的な印象をもっていただけていることも大きな要因だと思います。学校を取り巻く大人たちが教育活動をポジティブにとらえている状況の中では、子どもたちも安心して過ごすことができるはずだからです。

一人でも多くの子どもたちが学校に楽しさを見いだせるように、居心地のよさを感じられるように、我々教職員もさらに受容性を高め、保護者・地域の皆様と連携し、子ども一人一人に寄り添える学校を実現させていきたいです。



Yokohama City
Kamisueyoshi Elementary School
70th Anniversary